

部落解放研究所おしらせ―第二八回研究所総会開く

感銘を与えた金永大氏の報告

第二八回研究所総会・

第一〇回研究者集会終わる

三〇〇人が参加して

去る七月九日〜一〇日、(社)部落解放研究所の第二八回総会と第一〇回全国部落解放研究者集会在、奈良市あやめ池の桃山荘で開かれた。研究所創立二〇周年を迎えた今年は、これまでで最高の三〇〇人へのぼる参加者を得た。

総会は村越末男理事長を議長として始まり、来賓として出席された大西部落解放同盟副委員長、高橋大阪府連書記長、浜本大阪府同和教育企画室長、駒田大阪市同和对策部長、広島部落解放研究所の門田理事長からそれぞれ挨拶を受けた。さらに山上益

朗弁護士から「狭山第一次再審請求について」の特別報告があり、その後、議案の審議に移った。議案は一九八七年度事業報告・会計決算報告、一九八八年度事業計画・予算案などで、いずれも友永健三事務局長から提案され、採択された。

なお総会に先立って、過日完成したスライド「『部落解放基本法』制定をめざして(Ⅱ)」が上映され、好評を得た。また総会の時間に、本年一月に結成された反差別国際運動へのカンパと署名を訴えたところ、総額八二、六五一円のカンパと多数の署名が寄せられた。

研究者集会の全体会議では、まず『朝鮮の被差別民衆』(原題は『実録 衡平』)の著者である金永大氏から特別報告「白丁と衡平運動」を受けた。最初に、青丘文化ホールの辛基秀氏から金永大氏についての

紹介があり、ついで報告に立った金氏は、「私は、日本に今なお部落差別があることを聞き、非常に憤慨している。今後、微力ながら、不平等、人間差別をなくすために努力したい」と挨拶し、一時間半にわたる熱のこもった講演は、大きな感銘を与えた。

続いて、元木健大阪大学教授から全体報告「『部落解放・人権啓発基本方針』と今後の課題」を受け、その後四つの課題別会議にわかれ、一〇の報告にもとづいて討論を深めた。

また、第二日目の全体会議では、部落解放同盟新潟県連の小池重市氏から特別アピール「新潟県神林村訴訟に勝利して」と、研究所研究部長の大賀正行氏から集会のまとめ「今後の部落解放運動の方向と研究課題」があり、集会を終了した。